

平成26年中の役場10大ニュースを発表します

6 子育てふれあい館

旧御船幼稚園を改修し、町の子育て支援の核となる、子育てふれあい館が4月28日開館した。

これまで、公民館御船分館で行われていた「つどいの広場事業」「子育てサポート事業」が、子育てふれあい館に移ったことにより、月平均の利用者は2倍の614人に達した。

ふれあい広場にも近いことから、更なる利用者増が見込まれ「子育てしやすい町」の一役を担っており、各種高齢者組織との「異世代交流」の場ともなっている。



7 じっちゃん・ばっちゃんの無印野菜

平成25年4月に北田代老人クラブの依頼で、地域高齢者の元気づくりを目的とした、家庭菜園「野菜栽培講習会」を、営農指導員が講習会や講演会を行ってきた。このことをきっかけに、収穫できた野菜などを販売できないかとの要望があり、田崎市場仲卸業者の協力を得て出荷体制を構築。6月から出荷が始まり、地ぎゅうり・ズッキーニなどの珍しい野菜10数種類を出荷。地域高齢者の元気づくりと活性化に繋がった。



8 御船街なかギャラリー

4月20日に御船街なかギャラリーがオープン。江戸時代後期から明治時代に建てられ、酒蔵として唯一残っていた大型町家を改修し、主屋、南蔵、北蔵、離れの4つの施設を整備。文化および芸術の発信拠点として、工芸展や絵画展、マルシェなど民間による様々なイベントが開催されている。また、結婚式の前撮りなどにも活用されており、4月までに約13,000人が利用している。



9 都市再生整備計画事業

御船地区都市再生整備計画事業として、平成22年度から平成26年度までの5年間で整備を行う。現在、広報活動支援事業と事業効果分析支援等業務を進めている。4月には、ふれあい広場、新恐竜博物館、子育てふれあい館、街なかギャラリーなどの施設がオープン。特に、目玉となる新恐竜博物館へは15万人以上の来館者が訪れている。



10 御船版コミュニティースクール

社会環境が大きく変化するなかで、地域と一体となったよりよい教育環境の実現を目指して、山間地区の学校が複数統合している七滝中央小学校を御船版コミュニティースクールに指定。地域の方に教壇に立っていただく（ゲストティーチャー）、地域の伝統行事に児童、職員も積極的に参加することなどを通して、学校と地域の双方向性のある関係づくりを行い、地域の活性化にも貢献した。



1 恐竜博物館新館オープン

4月27日にオープンした「新恐竜博物館」。11月には15万人を突破した。町立運営の恐竜博物館としては、全国一の収蔵資料数約15,000点、骨格約20体を展示している。また、特別展「モンゴル ゴビ砂漠の恐竜たち」が開催され、モンゴルゴビ砂漠で発見される最大の肉食恐竜「タルボサウルス」の全身骨格標本など本物の化石が展示された。



2 ふねまる誕生

マスコットキャラクター「ふねまる」が、3月15日に誕生。町内の小・中・高校生からイラスト146点の応募があり、入賞31点から最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作5点、特別賞2点を選考。町の子どもたちの夢が詰まったキャラクターが誕生した。町のPR大使に任命され「ふねまる宣伝隊」と、恐竜博物館開館やモンゴル特別展など、県内外で御船町のPRを行った。2014ゆるキャラ®グランプリにも出場し1,669体中87位だった。



3 こども医療費が中学生まで拡大

6月の議会で、こども医療費の助成を中学生まで拡大。平成19年度の就学前までの助成から、平成20年度には小学3年生、平成22年度には小学6年生と段階を踏んで年齢引き上げを行った。8月1日から、就学前までの子どもたちは無料。小学生から中学生までは、1カ月1医療機関ごとに1,000円までの負担となった。また、「こども医療費受給者証」と保険証を医療機関で提示すれば、原則、保健センターへの医療費の請求が不要になった。



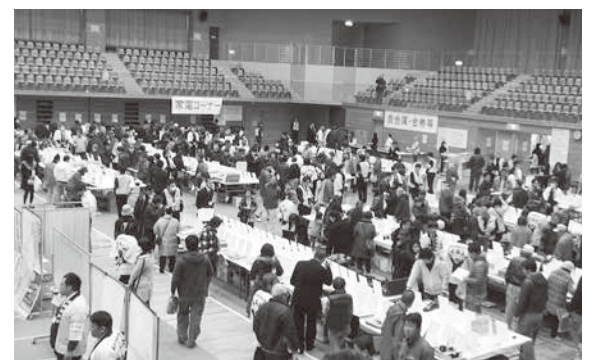
4 コンマ1秒の改革

平成19年の参議院議員通常選挙から、開票時間の短縮に向けた協議検討を進め、職員の意識改革と開票作業の効率化に取り組んできた。12月14日の衆議院議員総選挙の開票作業では、効率的な人員配置、開票作業の効率化を担うべく特命係の配置など選管担当者のみでなく、開票事務に従事した職員との連携により町独自の開票スタイルを確立した。開票時間については、平成24年の衆院選と比較し、29分短縮できた。



5 九州市町村合同公売会

1月12日、益城町総合体育館で「九州市町村合同公売会 in 熊本」を開催。高額落札と参加団体の関係や交流を目的に、御船町が中心となり開催。県内28、県外17の自治体から600品が出品され、約800人が来場。スタッフ180人が対応した。徴収係4人と税務課が挑んだ九州初の合同公売会は、参加団体への依頼、備品調達、会場設営、当日の運営までを御船町が中心となり行い、九州各県に「御船町」をアピールできた。



御船町役場10大ニュース